

ばんげい 教育ほつとにゅーす かわら版

こ みち
教育の小径 No.2

今月の花／シクラメン
花ことば／内気、はにかみ

今月の「今日は何の日」

- 12月 1日：映画の日
- 12月 3日：カレンダーの日
- 12月 7日：大雪
- 12月10日：世界人権デー
- 12月12日：漢字の日
- 12月13日：正月事始め
- 12月15日：年賀郵便特別扱い始め
- 12月24日：クリスマス・イブ
- 12月25日：クリスマス
- 12月31日：年越し・大はらい



北 俊夫先生
国士舘大学教授

「かかわり合う力」
を考える

- 人間関係の希薄さなどにより、子どもたちにさまざまな対象への「かかわり合う力」が欠如している。
- 自分自身との対話力はもとより、友だちや教師、地域の人たちなどの他者、社会や集団などと「かかわり合う力」を育てたい。

なぜ「かかわり合う力」なのか

最近、学校では子どもたちに「かかわり合う力」を育てることがたびたび話題になっています。教育における重要なキーワードとしてクローズアップされてきました。

なぜ、いま「かかわり合う力」なのでしょう。必要とされる背景や理由の一つに、少子化の進行による兄弟姉妹の減少、社会的な自立の遅れなどによる人間関係の希薄さをあげることができます。子どもたちを見ると、話をする、言葉を掛ける、報告するなど、対象に一方的にかかわることはできても、双方向で「かかわり合う」ことができず、質の高い集団が形成されない事態も生じています。

一方、今日の社会においては、都市化の進行に伴い、地域コミュニティの崩壊が指摘されています。人との望ましい関係（かかわり）が構築できず、相手を身体的、精神的にキズを付けたり、社会のなかで共に生きることがで

きなかったりするなど、残念な社会現象が多発しています。他人のことに口を挟まない、関知しないという社会の風潮も見られます。

「かかわり合う力」の欠如は、社会の病理現象として顕在化し、社会問題化しつつあります。

かかわり合う対象は何か

では、子どもたちに「何と」かかわり合う力を育てるのでしょうか。そのポイントは次の三つです。一つは他者とのかかわり合いです。他者とは、家族であり友だちであり、教師であり、地域の人たちです。自分を取り巻く、さまざまな人たちが全て他者です。

その二つは社会や集団です。人間は誰でも一人で生きていくことはできません。社会（集団）の一員としての自覚と、その社会に対して誇りをもち、よりよくするために貢献することです。そのためには、社会から学ぶという姿勢が大切です。ここに双方向のかかわり合いが生まれます。

いま一つは、自分と対峙しながらこれまでを振り返り、これからを考えることができるようになることです。すなわち自己内対話をとおして自己認識を深め、自己を確立することです。

かかわり合う対象を他者、社会や集団、そして自己の三者としてとらえ、学校教育のさまざまな場面で、「かかわり合う力」を育てたいものです。

かかわり合う力の中核は言語力

私たち人間はコミュニケーションのための道具をもっています。「言語」です。かかわり合うとき、言語は有力なツールです。

今、言語活動の充実が求められているのは、コミュニケーション能力としてのかかわり合う力の育成を目指しているものです。かかわり合う力を育てるため、次のような観点から日々の授業を改善してはどうでしょうか。

- ・自分の考えをしっかりとらせる指導を充実する。
 - ・子どもたちの間に、学び合いなど交流活動やかかわり合う場をつくる。
 - ・かかわり合うためのスキルや学習ルールを身につける。
 - ・支え合う思いやりのある優しい心を育て、子ども同士、子どもと教師の人間関係をより豊かにする。
- 子どもたちにかかわり合う力や態度を育てるために、私たち教師が互いに学び合い、高め合う質の高い教師集団でありたいものです。

国語科の新学習指導要領に「伝統的な言語文化に関する事項」が新たに示されました。今回の改訂で、小学校、中学校を通じて改善されたポイントの一つです。

1・2年では「昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせ」、3・4年では「易しい文語調の短歌や俳句の音読や暗唱」「ことわざや慣用語、故事成語などの意味」、5・6年では「親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章、古典について解説した文章」を新たに上げるようになりました。

これらは、先人が生み出したわが国固有の伝統的な言語文化です。これらを理解し享受するとともに、末永く継承、発展させるために、生涯にわたって古典などに親しむ態度を育成することを目指しています。



今後、子どもたちに親しみやすい題材の開発と、指導方法の工夫が授業研究の新しい課題になります。伝統や文化の教育を充実させる観点から、子どもたちの言語活動を充実させ、豊かな言語力をはぐくみたいものです。

子どもたちが調べたり考えたり、さらにはまとめたりしたあとには、多くの場合、それらを発表させる場が設けられます。発表の機会は、子どもたちに学習に対して成就感や達成感を味わわせるうえで重要なことです。学習の成果を公表することによって、友だちから評価を受ける機会になります。

発表活動の場面で感じることは、発表する子どもたちがメインになり、それを聞く子どもたちが受け身になっていることです。「カラオケ型発表会」とでも言うのでしょうか。発表する人とそれを聞く人が相互にかかわり合う姿が見られないのです。

発表させるときには、発表する子どもたちにその目的や方法

や心構えを指導するとともに、発表の内容をはじめ聞く子どもたちへの手厚い指導が不可欠です。発表の聞き方や受け入れ方、評価の仕方など、発表内容に直接かかわる感想をもち、それらを周囲の友だちに意思表示できるように指導したいものです。これが発表活動の意義であり、学び合いです。



教育キーワード 免許更新講習

来年度から、免許更新講習が本格実施されます。「忙しいなかで、30時間の講習を受けるのは負担だ」という声を耳にします。これまでなかったことが新たに導入されるのですから、負担感をもつのは自然な感情です。

自動車の運転免許状は5年ごとに講習を受けて更新されます。ここでは、道路交通にかかわる新しい情報や知識を得るとともに、これからも安全運転

に徹しようと心を新たにします。

免許更新講習も日ごろ多忙ななかで知ることができない、学校教育をめぐる新しい情報や動きを知る機会になります。最新の知識や技能を身につけ、教員として必要な資質能力を保持することになります。いわゆる不適格教員の排除を目的にしたものではありません。本講習を自己啓発、自己研修の機会として位置づけてはどうでしょうか。

学級通信に使える今月のイラスト



Information (PR)

全面改訂
新学習指導要領
完全対応

ワイド判
生きる喜びをはぐくむ
ばんげいの

1~6年生の道徳

監修 真仁田 昭・新井 邦二郎

定価 児童書 560円 (本体価格) 教師用指導書 2,600円 (+税)

発行 株式会社文溪堂

充実の付録
CD-ROM



編集後記

北俊夫先生はご寄稿いただいた「『かわり合う力』を考える」の中で、「言語」の大切さを指摘されています。仕事柄、私もたくさんの人とのかわりがありますが、自分の考えを相手にうまく伝えることの大切さを日々痛感しております。(K記)



企画・編集: ばんげい教育研究所
発行: 株式会社文溪堂 発行日: 2008年12月1日